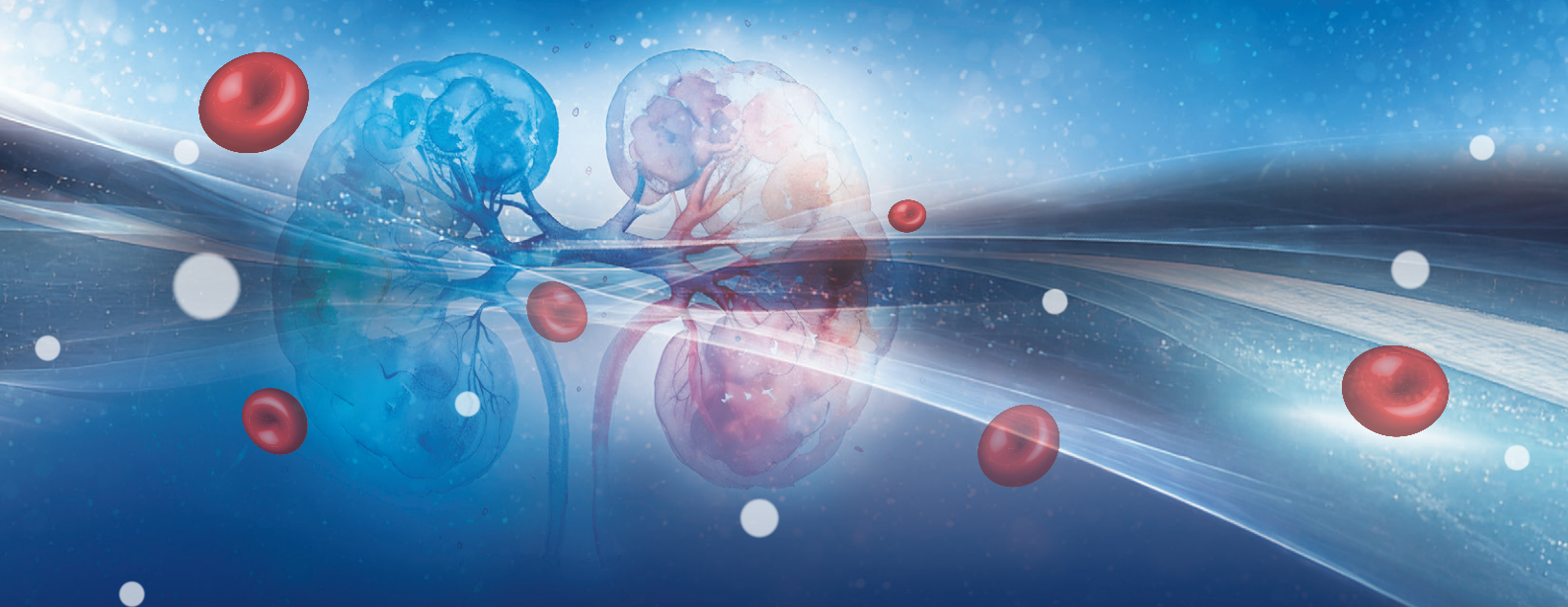
第73回日本臨床検査医学会年次学術集会

The 73rd Annual Meeting of Japanese Society of Laboratory Medicine

ランチョンセミナー4



CKDにおける腎性貧血と鉄代謝異常

～フェリチン評価の臨床的意義～

日時：2026年12月18日（金） 12：10～13：00

会場：第6会場（幕張メッセ 国際会議場３F「301」）
〒261-8550 千葉市美浜区中瀬2-1

座長：**山田 俊幸 先生**
群馬パース大学 副学長
医療技術学部検査技術学科 教授

演者：**阿部 雅紀 先生**
日本大学医学部
内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野 教授

参加登録のご案内
・学術集会の参加登録は11月上旬頃からの開始を見込んでおります。詳細は、学術集会ホームページよりご参照ください。

共催▶第73回日本臨床検査医学会年次学術集会／栄研化学株式会社

第73回日本臨床検査医学会年次学術集会
The 73rd Annual Meeting of Japanese Society of Laboratory Medicine

ランチョンセミナー4

CKDにおける腎性貧血と鉄代謝異常
～フェリチン評価の臨床的意義～

演者：**阿部 雅紀 先生**
日本大学医学部
内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野

腎性貧血とは、腎臓においてヘモグロビンの低下に見合った十分量のエリスロポエチン（EPO）が産生されないことによって引き起こされる貧血である。保存期CKD患者では、血中EPO濃度の測定が診断に有用なことがある。腎性貧血は慢性腎臓病（CKD）および透析患者の代表的な合併症であり、患者の生命予後や心血管イベント、QOLに大きな影響を及ぼす。近年、赤血球造血刺激因子（ESA）製剤に加え、低酸素誘導因子プロリン水酸化酵素（HIF-PH）阻害薬が臨床導入されたことで、腎性貧血治療は新たな時代を迎えている。一方で、その治療効果を十分に発揮するためには、鉄代謝異常の適切な評価と管理が不可欠である。CKD患者では、食事摂取低下や消化管からの鉄吸収障害、透析に伴う鉄喪失に加え、慢性炎症に伴うヘプシジン上昇によって機能的鉄欠乏が生じやすい。鉄状態の評価には血清フェリチン値とトランスフェリン飽和度（TSAT）が広く用いられている。近年の研究では、フェリチン値は単なる鉄貯蔵量の指標に留まらず、炎症、鉄利用障害、さらには予後との関連を反映する可能性が示唆されている。また、透析患者と保存期CKD患者ではフェリチン値の臨床的意義が異なることが知られており、適切な鉄補充や貧血管理を考えるうえで、その病態生理学的背景を理解することが重要である。また、近年では赤血球の質の評価としてMCVに加え、赤血球粒度分布幅（RDW）も注目されている。

本講演では、CKDにおける鉄代謝異常のメカニズムを概説するとともに、国内外の診療ガイドラインおよび最新のエビデンスを踏まえながら、腎性貧血診療におけるフェリチン評価の有用性と限界、ならびに実臨床における貧血管理の最適化について考察したい。